

# 平成 30 年度 上甌中学校区小中一貫教育研究公開

上甌中学校区 小中一貫教育目標

**独り立ちに向け、自らの生き方を主体的に切り拓く  
上甌の子供の育成**

研究主題

独り立ちに向け、9年間を見通した教育の在り方

～自ら考え、判断し、思いを表現できる児童生徒の育成をめざして～

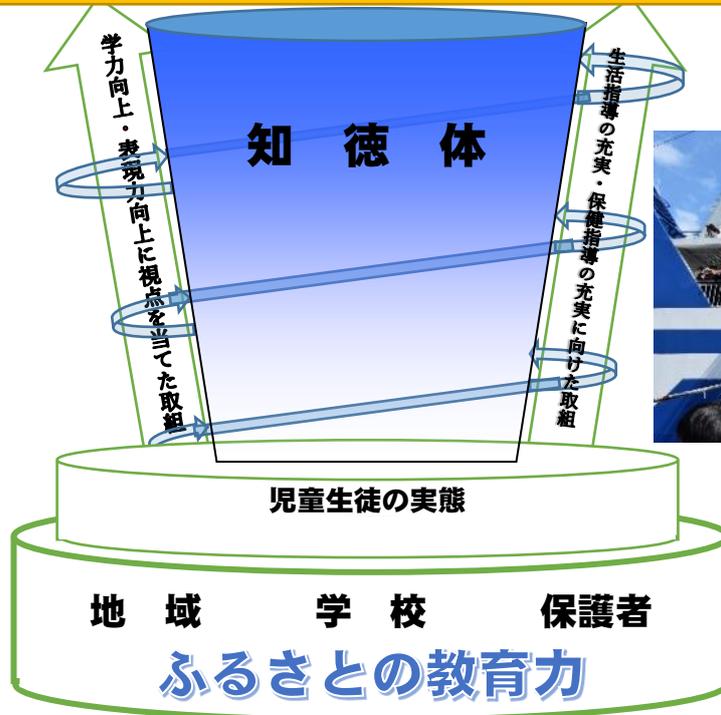
**確かな学力・基本的な生活習慣・心身の健康**



【上甌中学校】



【中津小学校】



【島立ちする生徒】

## めざす児童生徒像

知	徳	体
上甌を誇りに思い、主体的に考え、対話を通して判断し、身に付けた知識や技能を通して表現できる子供	上甌のよさを実感し、礼儀正しく思いやりがあり、自らの課題に進んで取り組む子供	上甌を愛し、基本的生活習慣を確立・管理するとともに、自分がやるべきことを粘り強くやり遂げる子供

## 【研究協議】

分科会	協議の視点
第1分科会	個に応じた指導・支援の在り方
第2分科会	言語活動の充実のための論理的思考モデル活用

平成 30 年 6 月 28 日 (木) 会場：薩摩川内市立上甌中学校

## 成 果

## 課 題

### 言語活動の充実のための論理的思考モデル活用

- 1 単位時間の授業において、論理的思考モデルを活用したことで言語活動の充実が図られてきた。特に、ペア学習やグループ学習を全ての教科で取り入れたことで、児童生徒個々の考えを深めることができた。
- 少人数のため、ペア学習やグループ学習が固定化し、児童生徒個々の学びがパターン化してきている。

### 基礎学力向上と活用力の育成

- 学力向上を目的とした授業交流及び教科部会が積極的に行われるようになった。また、異年齢集団を通じた活動を通して、個性を認め合い、伸ばす学習につなげることができた。
- 小学6年生から中学1年生のつなぎ課題作成と見届けに小中教科担任が全員関わることができ、個に応じた指導・支援につなげることができた。
- 授業交流の打ち合わせの時間確保が厳しい。また、発達の段階に応じた児童生徒への具体的な指導・支援の積み重ね（記録・集約）が曖昧である。今後、教科部会内での実践とその評価が必要である。
- 提出された課題のチェックのみで終わっていることが多く、学習意欲向上に向けた更なる実態把握と取り組ませ方の工夫が必要である。

### 自立する力の育成

- 家庭や地域との連携において、独り立ちする上での生活に関する共通目標を共有し共通実践することができた。
- 家庭との学習に関する連携において、児童生徒の実態や学習内容をより具体的に伝えたり、家庭学習への理解を求めたりするなど学校からの更なる啓発が必要である。



知

論理的思考モデルを活用した発表活動とペア活動（特別活動）



徳

中学生による競技内容の説明（幼小中合同運動会練習）



体

小中教諭による指導・支援（保健体育科 授業交流）



知

つなぎ課題を活用した、個に応じた指導（中学校の個別学習の時間）



徳

小・中学校教諭による指導法研究（外部講師による道徳特別授業）



体

保護者による健康課題への取組（小中合同学校保健委員会）